

ibuki



社会福祉法人 いぶき福祉会



いぶきのはじまり

いぶき共同作業所スタートから25年がすぎました。しかし、いぶきのはじまりは作業所スタートから、さらに3年前の1981年までさかのぼります。

1982

【一部抜粋】「すべての障害者に働く場と生きる喜びを」と27日、岐阜市内の障害児を持つ親や養護学校教諭らが同市内中央青少年会館に集まり「岐阜地区に共同作業所をつくる会」を結成した。親が中心となる本格的な作業所づくりは同市では初めて。（中略）結成を進めてきたのは、同市則武、タクシー運転手、竹中隆晟さん（46）ら同市や大垣市などの養護施設へ通う子供を持つ親10人と、養護学校の若い教師ら10人。（中略）「地域の社会人として障害者が生きていけるような共同作業所づくりをすすめる」ことを目標に（中略）さっそく障害児たちは指導員らの手ほどきで、作業所建設基金集めのための洗濯バサミ作りに取り組み、作業所建設に向けて第一歩を踏み出した。（中略）竹中さんは「何から手をつけてよいかわからぬ状況だが、子どもを愛する親の願いが実を結び、ここまでこぎつけた。建設資金をどう集めるか、また指導員の不足など建設後の維持にも抱える問題は多いが、何とか2年後には、仕事の内容や場所で、障害者を選別することがないような作業所をつくりたい」と意欲を燃やしている。



「障害」を乗り越えて



【一部抜粋】「いぶき共同作業所」の開所式が（中略）一部年に岐阜市中央公民館分室で行われた。心身障害者の子供をもつ家族が中心となって、（中略）資金づくりのための廃品回収などをして準備をすすめてきた。その願いと努力がかなって4月、同市則武に平屋建て約40平方メートルの作業所が完成。すでに17歳から22歳までの青年5人が毎日洗濯ばさみの組み立てなどの間断な作業をしている（中略）作業所の指導員、横幕嘉行さん（32）の話では、これまで紙一枚を切ろうともしなかった子供たちが、作業所で働くようになってからは、仕事の分担を持ち、進んで楽しく仕事をするように変わってきたという。

1984年6月4日
毎日新聞朝刊

1984

『いぶき』とは…

伊吹山、伊吹おろしのいぶき 春の息吹のいぶき
岐阜市（井）にふきでる意味のいぶき

障害という寒風（伊吹おろし）に耐えて在宅生活をしてきた、障害者が一人の社会人として伊吹山の雄姿のように、たくましく育っていけることを願っています。障害者にとって春の息吹の役割をはたせたらと願い名づけられました。

「つくる会」の活動から「いぶき」への2年間には、1人で悩んでいるのではなく、多くの人が集まり、力と声を合わせ、協力を呼びかけ、さらに支援の輪を広げていく、現在のいぶき福祉社会後援会の活動の原点がありました。

*本文では当時の新聞の表現をそのまま引用しています。

いぶき福祉会のあゆみ

- 1981年 4月 障害児、者を持つ親、施設、教員、関係者による学習会で「希望するすべての障害者に働く場を保障し、働くことを通して発達を保障する」ことをめざし、『共同作業所』作りをしていくことを確認
- 1983年 6月 『日曜作業所』を開所し、作業訓練
11月 常設作業所づくりのために廃品回収を開始
- 1984年 4月 『いぶき共同作業所』(岐阜市則武)開所・入所式
7月 岐阜市より心身障害者小規模授産施設として委託認定
- 1987年 4月 旧岐阜市役所島支所の借用契約を結び、29日移転
6月 開所5周年を記念して『いぶきふれあいまつり』を開催。
- 1991年 6月 『いぶき福祉会設立準備会』設立発足総会。以後3年間の資金カンパ運動に7千人以上の市民が参加。自己資金目標額達成。
- 1992年 4月 『第二いぶき共同作業所』を長良福光に開設
「第1回いぶきまつり」開催(以後毎年開催)
柳ヶ瀬日の出町に福祉の店『きらら』を開き、手作り授産品を販売
- 1994年 6月 『社会福祉法人いぶき福祉会』認可
7月 いぶき新施設 起工式
- 1995年 4月 社会福祉法人いぶき福祉会『いぶき』(岐阜市島新町)開所
- 1997年 4月 『うずら共同作業所』(岐阜市東鶉)に開設
『第二いぶき』建設のため募金活動
12月 自己資金目標額達成
- 1998年 3月 国へ施設整備協議書提出
6月 国より施設整備認可
- 1999年 3月 『第二いぶき』竣工完成
4月 『第二いぶき』(岐阜市出屋敷)開所
6月 『第二いぶき』開所祝賀会
- 2000年 4月 グループホーム『しまホーム』(岐阜市則武)開所
10月 第二いぶきにおいて「重症心身障害児(者)通園支援事業」開始
- 2002年 4月 グループホーム『さぎやまホーム』(岐阜市鷺山)開所
- 2003年 4月 知的障害者デイサービスセンター『コラボいぶき』(岐阜市出屋敷)開設
グループホーム『第二さぎやまホーム』(岐阜市鷺山)開所
- 2006年 10月 コラボいぶきが生活介護事業へ事業移行
- 2007年 4月 第二いぶきが生活介護事業へ事業移行
『うずら共同作業所』が就労継続支援B型へ事業移行。それに伴い名称を『いぶきゆめひろ共同作業所』へ変更
- 2011年 4月 『パストラルいぶき』(岐阜市出屋敷)開所
- 2012年 4月 重心B型が第二いぶきB(生活介護・児童発達支援・放課後等デイサービス)へ事業移行
- 2013年 4月 『サテライトいぶき』(岐阜市近島)開所
- 2014年 4月 『きざはし』(岐阜市島新町)開所
- 2016年 3月 『ゆめくるん工房』(岐阜市島栄町)開所

社会福祉法人いぶき福祉会 事業・施設案内

事業所

西部事業部

- **いぶき** 開所 1995年
生活介護事業 定員 20名
放課後等デイサービス 定員 10名
相談支援事業
- **しまホーム さぎやまホーム**
開所2000年
グループホーム 定員 18名
- **サテライトいぶき** 開所 2013年
生活介護事業 定員 10名
就労継続支援B型 定員 10名
- **いぶきゆめひろ共同作業所** 開所 1997年
就労継続支援A型 定員 10名
いぶきゆめひろ共同作業所石谷出張所
- **きざはし** 開所 2014年
生活介護事業 定員 20名
- **ゆめくるん工房** 開所 2016年
就労継続支援A型 定員 10名
就労継続支援B型 定員 10名

北部事業部

- **第二いぶき** 開所 1999年
生活介護事業 定員 20名
第二いぶき 2
生活介護事業 定員 20名
第二いぶき B 開設 2012年
生活介護事業 定員 20名
- **パストラルいぶき**
開所 2011年
グループホーム 定員 20名
ショートステイ 定員 2名

私たちのめざすもの

どんな障がいのある人も、いきいきと暮らしていける社会の実現を目指し、障がい者自身とその家族、職員、地域の人々が力を合わせて活動します。

- 1.労働を通して障がいのある人の発達を保障していきます。
- 2.生活体験を広げ、人間らしく豊かな生活を目指します。
- 3.障がいのある人の権利保障を迫っていきます。

事業方針

知的な障がいのある人に対し、障がいの程度、種別に応じた適切な支援方法によって、療育的な面も配慮しながら、作業訓練を行い、集団における協調性を養い、社会の中で自立していけるように援助を行います。

一日のながれ

9:00 (9:30)	日課開始
9:30～12:00	午前の日課
12:00～13:15	昼食・昼休み
13:15～15:30	午後の日課
16:00 (15:45)	帰りの送迎開始

※()は第二いぶき

おもな活動内容

仕事

菓子製造・農業・草木染め・紙すき・
縫製・紙バッグの作成
など

取り組み

レクリエーション・創作・音楽・
リハビリテーション・外出・調理
など

主な行事

春

いぶきまつり・お花見

夏

水泳・プール・なつまつり

秋

小旅行・健康診断・スポーツ大会

冬

クリスマス会・忘年会
成人還暦を祝う会



いぶきメディアクリップ

第3種郵便物認可 岐

障害者手作りの焼き菓子販売 アクティブGに拠点開設



「ねこの約束」JR岐阜駅店がオープン、手作りかんぱんを手にする買い物客。岐阜市橋本町、アクティブG。

「いぶき福祉社会」 雇用再生基金を活用

障害者が手作りの焼き菓子などの土産品を販売する「ねこの約束」JR岐阜駅店が6日、岐阜市橋本町のアクティブGにオープンした。スタッフにはハローワークを通じて求職者を採用、障害者の給与アップ、雇用創出にむかいつくりの実現に、広さ7坪(約23平方メートル)の小さな店が挑戦する。(菅野進)

店舗を設けたのは、障害者施設を運営する「いぶき福祉社会」(同市島新町)。県ふるさと雇用再生特別基金を活用し、スタッフの人工賃や店舗の賃料などに充てる。基金からの支援を受けられる期間は最長2年だが、この間は売上金をそのまま障害者に渡すことができた。今後は岐阜駅店が販売拠点になる。オープン初日は用意したマドレーヌ160個が1時間弱で完売。かんぱんも素材な味が好評で、上々の滑り出しとなった。

店舗名は、商品から取ったものが、いぶき福祉社会の北川雄史施設長は「約束」とは、それぞれの思いや夢が実現してほしいとの願い」と話す。新しく雇用されたのは20、30代の女性3人。これまでアルバイト暮らしだったという女性は「一人に役立てる仕事っていいですね」と話していた。

営業時間は午前11時から午後7時まで。

障害者の給与アップを目指す

2010年4月7日付 岐阜新聞「ねこの約束」

中日新聞 2010年(平成22年)4月7日(水曜日)

手作り菓子の販売店開店

障害者も街づくりに貢献 岐阜



菓子手作りするのは、色ごとに恋愛「金運」安同福祉会の二つの知的障害者全一など異なる割利益が者通所施設の利用者二十五ある。価格は焼き菓子もかんぱんも愛らしい招き猫りんどうも一袋百五十円。の形で、飛騨産のバターを、焼き菓子作りは三年前にふんだんに使った焼き菓子。始まったが、ネット販売が中と、かんぱんという二種類。心で自主運営する店舗でのそれぞれ色や味の違う八品販売は初めて、「ねこの約束」をそろえる。焼き菓子には、東という店名は職員で話

知的障害者が手作りの焼き菓子などの販売店「ねこの約束」が6日、岐阜市橋本町にあるアクティブGにオープンした。障害者を抱えながらも街づくりに貢献したいという思いが結実した店。運営する社会福祉法人「いぶき福祉社会」(岐阜市島新町)は「障害者の方が誇りを持つ場所になれば」と願う。(青山直樹)

「ねこの約束」JR岐阜駅店がオープン、手作りかんぱんを手にする買い物客。岐阜市橋本町、アクティブG。

オープン大勢の客でにぎわう「ねこの約束」。いぶき福祉社会の北川雄史施設長は「約束」とは、それぞれの思いや夢が実現してほしいとの願い」と話す。新しく雇用されたのは20、30代の女性3人。これまでアルバイト暮らしだったという女性は「一人に役立てる仕事っていいですね」と話していた。

営業時間は午前11時から午後7時まで。

初日は完売、順調スタート

招き猫の形など2種

愛らしい招き猫の形をした焼き菓子

2010年4月7日付 中日新聞「ねこの約束」

県内の優れたモノづくり製品を、目の肥えた消費者が多い東京・六本木の「東京ミッドタウン」で売り込むテストマーケティング。県などが

5月から定期的に実施している。今月始まった3回目の展示販売で障害者施設の製品が初めて選ばれ、注目を集めている。(寺本康弘)

授産施設商品 東京デビュー

県のテストマーケティング



東京ミッドタウンで販売する草木染のハンカチを作る通所者ら＝岐阜市出屋敷の「第二いぶき」で

草木染と本カバー デザイン性優れる
テストマーケティングは、これまで三十五社九十九品が採用された。今回は年々増加の二万五千回、二十社の五十六品「プロジェクト」(東をミッドタウンの店頭京都港区)が企画。ここに並べる。

施設として初めて出品するのは、岐阜市の「いぶき福祉社会」が運営する授産施設「第二いぶき」。草木染のハンカチ(一枚四百二十円)とフタマルブックカバー(一枚千八百円)を販売する。

「桜」など八種類の色がある。ブックカバーは牛乳パックやおがくずをすいて手づくりした紙に、ネコやチヨウなど切り絵作家の作品を重ね合わせた。いずれもデザイン性に優れた商品だ。通所者六十人が製作に携わり、職員四十八人も手伝う。北川雄史施設長(右)は「売れる商品づくりをいっつも考えている」と強調。「東京での二カ月がどうなるか不安だが、楽しんでいる」と期待している。同施設の商品はJR岐阜駅のアクティブGにある店舗「ねこの約束」でも販売している。

2010年11月3日付
中日新聞「テストマーケティング」

コスト活用術! ホケモンセンター・パワースポット56
100円OFF券×2枚
【ファミリーウォーカー】
2011 January
1
1か月テレビ番組付き 171号〜31号
★のトクSpecial!
キッズニアチケットプレゼント
スバ競ヒッキーOFF企画
ヘビーユーザーのママに密着取材!
コスト活用術&レシピ
たろみ製菓マザーズでマイナス100円
キレイなママの密着肌テク
ママと子どもの願いを叶えたい!
パワースポット56

8つのご利益と味が楽しめるマドレーヌ

「ねこの約束」の招き猫マドレーヌ 8個入 ¥1500

【お取り寄せDATA】
注文URL: www.rakuten.co.jp/chiraku/
期間: 通年 賞味期間: 14日間
送料: ¥840 支払: 代引、銀行振込、クレジットカード決済
店舗: 岐阜市橋本町1-10-1 アクティブG 2F 5058-265-8909 因奇数月の第3日

JR岐阜駅構内にあるショップで、店名どおり名物はやっぱり招き猫マドレーヌ。金色は金運、緑は合格など、8つの色に合わせたいろいろなご利益があり、味もブルーベリーやレモンと多彩な魅力。

お取り寄せも可能!
めでたい
かわいい
おいしい
ご利益お菓子

関西ファミリーWalker
2011年1月号
「招き猫マドレーヌ」

マドレーヌで



同市の長良川競技場で行われるホーム戦。試合前のロッカールームには、招き猫をかたどった紅茶味やレモン味のマドレーヌがずらり。試合前の糖分補給に最適で、あっといっ間になくなる。

熱いエール

「クラブを支えるサポーターの一員という意識が芽生え、仕事に誇りと責任を持つようになった。地元ของทีมを応援する楽しみも知ってもらえた」と手応えを感じている。

チームの最下位は決定したが、北川さんは「酒井さんらにとってFC岐阜の選手は地元のヒーロー。最後の試合は勝ち負けよりもヒーローらしい熱い試合を見せてほしい」と。今季最後のマドレーヌに熱い思いを込める。

岐阜の障害者ら 選手に贈り続け900個

知的、身体ともに重度の障害のある人たちが通う生活介護事業所「第一いぶき」（岐阜市出屋敷）の利用者が、サッカーJ2のFC岐阜に手作りマドレーヌをプレゼントし続けている。Jリーグ加入の二〇〇八年からホーム戦のたびに約五十個を贈り、今年は二百七十の最終戦で計九百個余りに。北川雄史施設長は「普段は援助してもらっていることが多い利用者も、地域のパートナーとして地元貢献する達成感を肌で感じている」と話している。（西川正志）



FC岐阜に贈るための招き猫をかたどったマドレーヌ（手前）を作る酒井聡さん（岐阜市の第一いぶきで）

試合日程から逆算して、マドレーヌを作る日を把握するようにになったといい、「先を見通して仕事ができるようになったのは大きな進歩」と北川さん。「クラブを支えるサポーターの一員という意識が芽生え、仕事に誇りと責任を持つようになった。地元ของทีมを応援する楽しみも知ってもらえた」と手応えを感じている。

長の紹介で、クラブの広報担当者と知り合った北川さんが思いついた。「J1には試合前にケーキを食べて糖分を補給するチームもあると聞き、喜ばれると思った」という。本来は一個百五十円でパッケージなどで販売し、売上金は利用者の給料になるが、FC岐阜には無償で提供している。五十人の利用者のうち四人がマドレーヌ作りを担当する。酒井聡さん（33）は、マドレーヌを作るようになってからFC岐阜のファンに。ホームのデーゲームには必ず足を運ぶ。

2011年11月26日付
中日新聞「マドレーヌでFC岐阜応援」

県支援の2障害者通所施設 新商品を知事に披露

草木染と利用者「丁寧に制作」



県の支援で開発した商品を古田隆知事（左から5人目）に披露した施設利用者ら（県庁）

岐阜市の知的障害者らの通所施設「第二いぶき」と多治見市の同施設「社会就労センターけやき」が、県から工業デザイナー派遣などの支援を受け、それぞれ草木染のポケットチーフ、デニム生地のエコバッグを製品化、25日に利用者が県庁で古田隆知事に披露した。派遣は売れる商品づくりを後押しする県の新規事業で、デザイナーは6月から企画やデザイン、ロゴマークの作成などで協力した。

第一いぶきはシルク素材をクサギやカリヤス、イチイなど施設周辺で集めた草木で染色。美濃和紙の包装を施し、「百々染（momozome）」とのブランドで発売。26日

からインターネットショップ（<http://momozome.jp/>）で売り出す。

施設で販売している。商品づくりに携わった利用者は「皆が協力し、丁寧に作った。つなげてくれる人が増えるとうれしい」などと語り、ポケットチーフやバッグを古田知事にプレゼント。知事は「おしゃれで使い勝手もいい」などとたたえも添えた。先月から同

2011年11月26日付
岐阜新聞「新商品（百々染）を知事に披露」

幸せを運ぶいぶきの手作りお菓子

まろき猫マドレーヌ



福を招く ぜいたくな焼き菓子

岐阜県産の小麦粉、太白ごま油、平飼い地鶏の卵、はちみつを使用し、じっくりと焼き上げた風味豊かなマドレーヌです。

かわいらしい招き猫型は、お祝い事や大切な人への贈り物にもぴったりの焼き菓子です。



果 鈴 糖



素材の味を活かした飽きのこないかりんとう

ひとつひとつ丹念に手づくりで製造したかりんとうです。
素材をやわらかい甘さが包み、懐かしい味が身も心も落ち着かせてくれる定番のお菓子です。素材を生地から練り込むのが特徴で、定番の6種類のほか、限定商品も登場します。食べた時の食感を大事にしたやさしい味のかりんとうです。



かりんとう、マドレーヌをはじめ、いぶきのお菓子や雑貨はJR岐阜駅アクティブGの“ねこの約束”で販売しています。皆さまのご来店をお待ちしております。



営業時間 11:00~19:00

定休日 アクティブG 休館日 (奇数月第2火曜日)

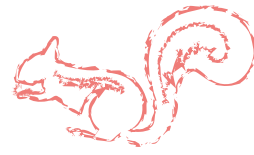
素材をぎゅっととじこめた宝石のようなジャム



e-joue

りすのほっぺ

ecureuil joue confiture



洋梨



いちじく



e-joue

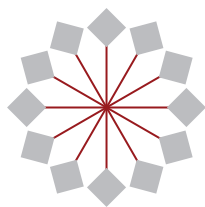
ecureuil joue confiture

Facebookページ
<http://www.facebook.com/risunohoppe>



小さなビンに入った色とりどりのジャムたち。その名も“e-joue (イージュ) りすのほっぺ” e-joueとはフランス語でecureuil=りす joue=ほっぺの略です。りすがほっぺにたくさんどんぐりを入れるように、いろんな味のジャムを口にしたくなっちゃう！そんな意味を込めて名づけた宝石のようにキラキラしたジャムたちです。“e-joue”のジャムは数量限定。いただいた果実や野菜、仕入れた素材をコトコト煮込んでひとつひとつ作っています。もちろん保存料などの添加物はいっさい入っていません。季節限定の味わいをぜひお試しください。

百々染 momozome



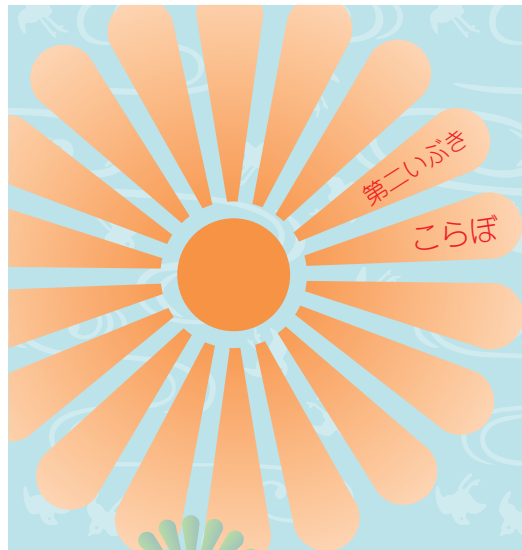
植物にいろいろな色があるように
人の個性も色とりどり
いろいろな個性 いろいろな人と人が
今日もたくさんの色でつながりますように

1日に染まり上がるのは5枚が限度。
急がず、慌てず、ていねいに染め上げています。
山で採ってきた花、公園で見つけた草花をちぎり、
じっくり煮込み、ゆっくりそれぞれのペースで染め上げてうまれたストールです。
ふたつとして同じ色のものはなく、
だからこそ染めている毎日がどんな色に染まり上がるのかワクワクします。



ホームページ <http://momozome.jp>
Facebook <http://www.facebook.com/momozome>
Instagram <https://www.instagram.com/momozome2525>





第二いぶき

こらぼ



御朱印帳

美濃和紙を使用して
一枚一枚 手漉きで作った表紙です
やさしい風合いと手触りを感じられる御朱印帳です



御朱印集め
はじめましょ



「御朱印」は、参拝の証として神社や寺で頂くことができます。御朱印は社寺によって千差万別で、ゆかりの深いものをモチーフにした押印と墨書きが一般的です。大切な御朱印を頂く冊子を御朱印帳と言います。御朱印帳は、集めることの喜びや、見返すことの楽しさなど、いろいろな魅力が詰まっています。

いぶき福祉会後援会へのご入会をお願いします

私たちは『長い間、在宅になっていた障害のある方や進路が決まらないまま養護学校を卒業した障害のある方たちが働く場・集う場をつくろう』と活動を続けて来ました。そして、『いぶき』に通い、たくさんの人と出会うなかで、働くことに誇りを持ち、お互いに認め合える存在となってきました。

しかし、2006年4月に『障害者自立支援法』が施行されました。この法律では、支援にかかる費用の一角を障害のある仲間が負担(応益負担)しなければなりません。今までは無料だった生きるために必要な支援(サービス)にもお金が必要になるのです。利用料を払えなければ通う場がなくなってしまいます。

「このまま生活していけるのだろうか」

多くの障害のある仲間がこんな不安を抱えています。そして、この不安はいつ解消されるともわかりません。

こうした不安な状況は、障害のある仲間だけの問題ではありません。2006年10月から高齢者の医療負担が増えました。生活保護の見直しも行われようとしています。今、障害者福祉だけでなく、社会保障そのものが崩されてきています。社会の中で、どうしても弱い立場になってしまう障害のある仲間への支援が十分にできる社会は、誰もが安心して暮らせる社会になるはずです。支えあい、みんなが笑顔で暮らせる社会作りを一緒に進めて行きましょう。

あなたもいぶき福祉会後援会の会員となって、後援会の活動を支え、真の笑顔に会える街をつくる力となってください。

会費は年会制です

[振込先]

郵便振替 00840-3-91146

加入者名 いぶき福祉会後援会

[年会費] 一般会員 一口 2,000円

団体会員 一口 10,000円

● オンラインでの入金も可能です。

下記のアドレスからご利用いただけます。

いぶき福祉会canpan決済 <http://kessai.canpan.info/org/ibuki/>



[お問い合わせ]

いぶき福祉会後援会事務局

TEL/058-233-7445 FAX/058-232-9140

E-Mail / ibuki@alto.ocn.ne.jp

(タイトルに後援会員と入れて下さい)



社会福祉法人 いぶき福祉会

〒502-0907 岐阜市島新町5番9号
TEL (058) 233-7445 FAX (058) 232-9140
E-mail:ibuki@alto.ocn.ne.jp
URL:<http://www.ibuki-komado.com/>

いぶきの小窓

検索

いぶき

〒502-0907 岐阜市島新町5番9号
TEL (058) 233-7445 FAX (058) 232-9140
E-mail:ibuki@alto.ocn.ne.jp

第二いぶき

〒501-2501 岐阜市出屋敷493番地
TEL (058) 229-6464 FAX (058) 229-6468
E-mail:ibuki2@alto.ocn.ne.jp

ねこの約束 IBUKI JR岐阜駅店

〒500-8856 岐阜市橋本町1丁目10-1 アクティブG 2階
TEL・FAX (058) 265-8909 やくそく
URL:<http://nekonoyakusoku.jp/>

ねこの約束

検索



いぶきの商品のお買い物はこちらから！

IBUKI Style URL:<http://www.ibukistyle.com/>